

入試年度	2023	入試方式	一般（秋季）	課程	博士前期
研究科	発達教育学	専攻	心理学	領域（分野）	心理学
出題のねらい					
<p>入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「心理学に関する総合的な専門的知識あるいは技能の有無について精査する」ことを目的とするが、専門の筆記試験では以下の2種類の問題を用意してこれらについて評価する。</p> <p>まず、心理学領域（基礎的な心理学）、臨床心理学領域の両方を含む心理学の広範囲に及ぶ領域についての知識、理解、技能を評価する。具体的には、認知心理学、社会心理学、生理心理学、心理統計学、臨床心理学、発達臨床心理学などの各領域から、知識、理解などを問う問題を出し、それぞれに簡単に解答することが求められる。もう1種類は、基礎の心理学に絞って、より深い知識や理解を問う問題に回答することが求められる。こちらの問題では、心理学領域の考え方や諸概念がしっかりと身につけていて、それらについて適切な日本語で、人に伝わるように議論できるかどうかを評価することを目的とする。</p>					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
<p>上記の狙いに沿った評価を行う。具体的な評価のポイントは以下の通りである。</p> <p>【1】は、上記の1番目の心理学の広い領域についての知識や理解を評価するための問題で、6つの小問からなる。各小問は、認知心理学、社会心理学、生理心理学、心理統計学、臨床心理学、発達臨床心理学などの各領域から、重要な概念や現象などについての簡単な説明を求める問題からなる。これらについては深い議論が求められるわけではなく、確実な知識、理解を有するかどうか問われる。4～7行程度で簡潔な説明ができていれば高い評価が得られる。</p> <p>【2】【3】は、上記の2番目の基礎的な心理学研究に関するより深い知識や理解を問う問題であり、科学的な議論ができるかどうかを問う問題でもある。【2】では、状況依存記憶についての知識、二要因の分散分析に関する統計学的な知識、基礎的な記憶についての諸理論の理解が問われる。（1）（2）では、要因計画やグラフを描く、グラフで説明するなどの技能も評価される。交互作用に関する統計学的説明と、それを状況依存記憶の問題に当てはめての説明がされていることが重要である。【3】では、情報としての感情仮説（感情情報機能説）、あるいは気分一致効果などの名称をあげ、その内容を説明することが求められるが、適切な例をあげ、メカニズムの説明ができていることが高評価につながる。</p>					